「まんなかビジョン」の今後のフォローアップ方策検討について

中部地方整備局企画部企画課　山田哲士

1　要旨

国民の価値観やライフスタイルは常に変化するものであり、それに伴い社会のニーズも常に変化するものである。このような社会の状況を踏まえて、地域において本当に必要な社会資本整備を進めるためには、時代の変化に対応した地域ニーズを的確に把握することはもとより、意志決定プロセスの透明化と政策の立案･展開を図る中で、地域との共有認識を持つことが重要である。

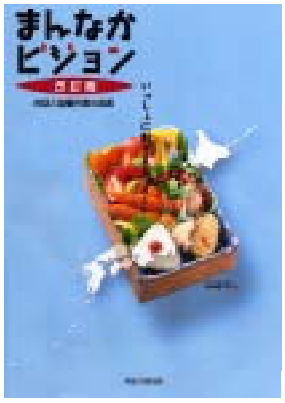
本報告は、中部地方の目指す将来像を提案する「まんなかビジョン」の策定過程において、平成15年度に実施した様々なPI(パブリック･インボルブメント)活動、特に一般の方々を対象に行った「国土交通ふれあい広場」（オープンハウス）、「ビジョン討論会」及び「住民満足度調査」から得た地域の声をもとに総合的に検討･評価を行い、今後も引き続き行う「まんなかビジョン」のフォローアップの方策検討について報告するものである。

2　「まんなかビジョン」とは

「まんなかビジョン」（以下、「ビジョン」という）**（図1）**は、国土交通省、中部地方の4県1市（岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、名古屋市）及び地元経済界の各関係機関が協働して提案した初めての共通目標である。このような国と地方が協働で作成するビジョンは他に例はない。

そして、これは概ね10～20年後における中部地方の将来像と、それを実現するための地域づくりの目指すべき方向を明確したものである。

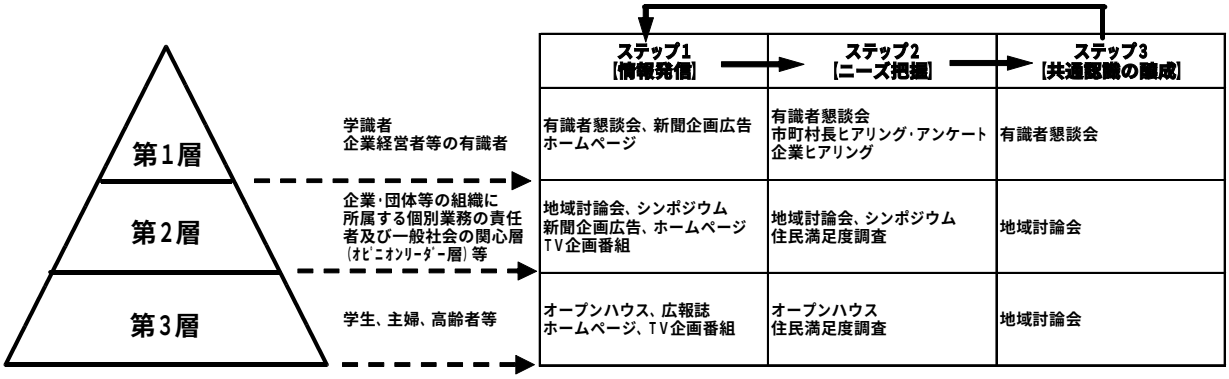
また、このビジョンは地域ニーズをPI活動により確認しながら、より地域の課題に即したビジョンとなるように絶えず見直すこととする「不断のフォローアップ」が特徴である。



■図1　まんなかビジョン（改訂版）

3　ＰＩ基本計画(案)

この計画では、PIの定義を『地域社会との間に強固な信頼関係を築くため、構想段階から地域との情報の共有･意見収集･対話などを積極的･戦略的に行うこと』としており、**図2**のようにPI活動の対象者を各階層に分類し、効果的なPI手法を計画した。



■図2　対象者の分類のイメージと各階層と各ステップの具体なＰＩ手法

４　平成15年度のＰＩ活動の結果概要

４．１　「国土交通ふれあい広場」（オープンハウス）と「ビジョン討論会」

「国土交通ふれあい広場」**（図3）**と「ビジョン討論会」**（図4）**は、中部地方の13地域14会場で開催した。

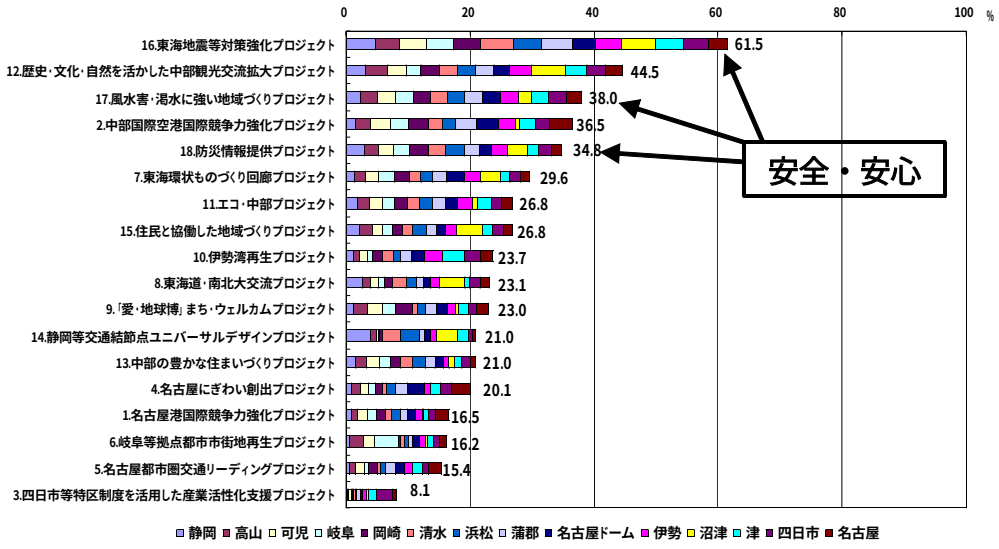
「国土交通ふれあい広場」は、パネル展示やチラシを配布しながら地域の方々に直接ビジョンを説明するとともに、アンケート調査を実施した。イベント会場等人通りの多い箇所で実施したことから、来場者約34,300人、アンケート回答者6,239人と多数の方々に対し情報発信や意見収集ができた。

■図3　国土交通ふれあい広場

同時に「ビジョン討論会」も開催し、延べ623名が参加した。各地域に立脚した個別テーマに基づいて地域の課題を共有し、今後の地域づくりの方向性について活発な議論を交わした。

■図4　ビジョン討論会

ここで、「国土交通ふれあい広場」で実施した関心のあるビジョンのプロジェクトについてアンケート調査をした結果、**図5**のように地域差はあるものの、上位を「東海地震等対策強化プロジェクト」等が占め、「安心・安全」な地域づくりについて関心があることが分かった。



■図5　関心のあるプロジェクトを選択するアンケート調査結果

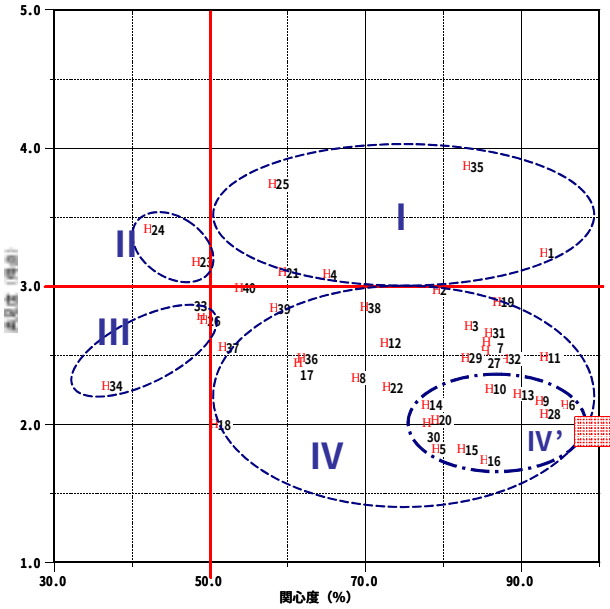
４．２　住民満足度調査

ビジョンの情報発信と調査結果をビジョンのフォローアップに反映させることを目的に、中部地方5県（岐阜県、静岡県、愛知県、三重県及び長野県南信地域）の20歳以上の地域の方々15,000人（中部地方の人口約1,500万人の0.1%）を対象に「住民満足度調査」**（図6）**を実施した。設問はビジョンの40の目標を評価する設問（各関心度・満足度で80問）と回答者属性を聞き取る設問（4問）の計84問で構成した。

有効回収率は34%（有効回収数は5,099票）と高い回収率を得た。

■図6　住民満足度調査

４．２．１　住民満足度調査の結果概要（関心度と満足度の２次元比較）



IV’に属する主な項目
＜重点化項目＞

5　ユニバーサルデザインが実感できる社会を実現します
6　安全で安心に移動できる生活環境をつくります
9　地震等に対する安全性を確保します
10　風水害等（洪水・津波・高潮・土砂災害等を含む）に対する安全性を確保します
15　温室効果ガス排出削減等の地球温暖化対策を推進します
16　循環型経済社会を構築します
20　もう一度訪れたいと思う魅力ある地域づくりを進めます
28　大気汚染や騒音等による生活環境への影響の改善を図ります

など

■図7　関心度と満足度の２次元比較

図7は、横軸に関心度、縦軸に満足度を2次元比較したものである。ここで「関心度が高く」、「満足度が低い」第Ⅳ類に属する項目が大多数を占めており、特にⅣ’に集中する。地域の方々は我々の進める社会資本整備について必ずしも満足していないという課題の残る結果である。

また、回答者の属性から見た結果として、「若年層」、「女性」の「関心度」、「満足度」が低い傾向にある。

５　「まんなかビジョン」の今後のフォローアップ方策検討

PI活動で最も重要な要素は、地域の方々に社会資本には多様な効果があることなどを理解しやすいように情報提供すること、地域の課題や特性等について一層関心を持ってもらうこと、一人ひとりの豊かさや夢を実現するために、今本当に必要なものが何であるのかを地域の方々自身が考えられるようにすることである。

よって、平成15年度に実施してきたPI活動の課題を克服するため、PI基本計画（案）に基づき、今後のビジョンの改訂に向けたPI活動のあり方やビジョンのフォローアップ方策について検討し、今後は以下のように取り組むこととする。

①「まんなかビジョン」の地域への浸透

国土交通ふれあい広場については、「若年層」や「女性」が集まりやすいイベントにおいて開催することとし、ビジョン討論会については、社会資本整備に関する学科を対象とした大学生の討論会を実施する。また、より一層の共通認識の醸成や、理解をより高めるために、PI活動を行う地域に即した施策や事業を紹介できるように「地域版ビジョン」を作成する。

②新たな地域ニーズ把握や課題抽出

今後もより一層の対話型行政の展開を推進するため、継続的に地域に出向いてPI活動を実施しながら対話の場を設けていくとともに、今後のビジョン改訂に向けて、より正確な情報提供と問題意識の共有、新たな地域ニーズの把握や課題抽出を実施する。

③「住民満足度調査」における「関心度が高く」、「満足度が低い」事項の底上げ方策の検討

図7の第Ⅳ類の項目の「満足度」を高める積極的な施策推進については、複数の機関、事業などの連携を行うものが多いため、第Ⅳ類のⅣ'の中から「重点化項目」を設け、各項目について満足度の底上げ方策を検討する。

④「住民満足度調査」等による定期的なモニタリングの実施

「住民満足度調査」は、広い範囲に渡って地域ニーズや施策に対する評価を把握することができる意見集約方法である。これらの「関心度」、「満足度」の結果を活用すれば今後も継続的にモニタリングを実践することが可能であるため、長期的及び短期的な視野にたって計画的に実施し、ビジョンのフォローアップに役立てる。

6　「お弁当」と「ぴーちゃん」

おいしいお弁当を食べるとき、人は幸せになる。ビジョンの目標が実現し地域の方々に幸せを感じてほしいという願いから表紙にお弁当を掲載した。お弁当は日の丸弁当から始めた。真っ白なキャンバスに地域の様々な声を反映させたいと願うためである。関係者との協働作業で様々なPI活動を行った結果、「幼稚園児のお弁当」になり、そして現在では各地域の声を盛り込む意味から、各地の特産品を盛り込んだ「小学生のお弁当」**(図1)**になった。

■**図8** まんなかビジョンのキャラクター

そして、「まんなかビジョン」のキャラクター「ぴーちゃん」**(図8)**は、「PI」から名付けた。誕生してから、関係者との協働作業で様々なPI活動を行いながら小学生まで成長した。今後も様々なPI活動を行いながら「まんなかビジョン」とともに「お弁当」と「ぴーちゃん」を成長させていきたい。

こうした、「お弁当」と「ぴーちゃん」のキャラクターは、地域の方々に親しみを持たれ、PI活動の効果をより一層高める役割を果す。

7　まとめ

私は、昨年ある地域の「国土交通ふれあい広場」で「まんなかビジョン」の説明をしていたところ「国は地域の声を聞くようになったのね」という声を聞いた。これは一つの成果であり我々の進める地域づくりの第一歩であると感じた。また、これこそ地域本位の行政展開の原点であると確信した。

しかしながら、地域ニーズの変化のスピードと社会資本の整備のスピードには大きな差があるため、常に先を見据えた事業推進や事業途中での必要な計画変更にも柔軟に対応することができるように、今後は地域ニーズの把握の手法について検討していかなければならない。

現在の「まんなかビジョン」は「進化を続けるまんなかビジョン」のほんの始まりに過ぎず、今後も積極的なPI活動を実施して、常に計画的･柔軟的に見直しを加えていかなければならないと考える。

最後に、この「まんなかビジョン」の策定にあたり、ご協力いただいた関係各位に厚くお礼を申し上げる。